

いのち、痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL



地域医療により大きく貢献!!

第15号

平成19年11月

災害拠点病院
病院機能評価認定 臨床研修病院



医療法人財団 池友会

福岡和白病院

〒811-0213
福岡市東区和白丘2丁目2-75
TEL.092-608-0001
E-mail:info@f-wajiro.biz
<http://www.f-wajiro.biz>

● 蒲池真澄氏インタビュー

「いのち 痛み」に全力」を理念に、地域医療に貢献

福岡和白病院、創立20周年にあたって

医療法人財団 池友会 福岡和白病院 院長 蒲池 真澄

収録日 二〇〇七年一〇月一五日
取材ライター 石田 真奈美



福岡和白病院が設立され、07年で20年という記念すべき節目の年を迎えた。池友会の成り立ちやその後の経緯については「下駄ばきーC.U. 小説池友会病院」に詳しいが、今回は池友会の創設者であり当病院の院長の蒲池真澄氏、これまでの歩みを振り返り、さつくばらんに語ってもらった。

■「下関かまち病院」を皮切りに

Q 創立20年を迎えた福岡和白病院ですが、院長にとってそもそものスタートは下関市の下関かまち病院。まず同病院についてお話しください。

蒲池 下関かまち病院を開業したのは昭和49（1974）年4月。つぶれかけた19床の病院を手に入れたのが始まりでした。当時、下関で救急救命を行う病院は他にいくつもあったけれど、うちの病院には関門海峡を渡って小倉、黒崎、時には交通事故で行橋から搬送されたり、ナイフが刺さったまま担ぎ込まれた患者さんもいたね。当初から市の救急本部に協力する体制でしたが、開業半年後の10月には市の救急告示医療機関になりました。私もほとんど病院に泊まり込み不眠不休のように治療にあたっていました。開業後、もうい



下関第一病院(救急)旧カマチ医院
1974年(S49年) 19床の下関カマチ医院
13人のスタッフでスタート(蒲池33歳)

■小倉、和臼、行橋、水巻など各地に開設

Q 下関を軌道にのせた後、福岡県内各地に次々と関連病院を開業されたんですね。

蒲池 下関開業から7年後の昭和56年、小倉北区に「小文字病院」を開業。そして同62年「和白病院(現・福岡和白病院)」、平成9（1997）年7月「行橋南病院(現・新行橋病院)」、そして同15年6月「福岡新水巻病院」を開業しました。これまで絶対命かと思われようなきさまさまな危機にも直面してきました。そのたびに必ず誰かが助けてくれて、今日に至ったと思います。

福岡和白病院は開業から20年という歳月を重ね、地域の中核病院として皆様にご支持いただける病院となりました。手狭になるたび増築を繰り返してきたけど、近接地に土地が確保できたことで全面的に建て替え、平成17年4月、現在地で新たなスタートを切りました。新病院は機能別に組織を新構築。ハートセンター、脳神経センター、高度放射線センター、総合外来、ヘリポートを完備した救急外来(ER)など、体制はもうろくにスタッフも技術も医療設備も充実強化させています。

■変わらぬ「蒲池真澄」の信念

Q 院長の医療に対する基本理念、信念とは。

蒲池 ひとつことでは難しいけど、まず「単なる地域医療ではなく、民族医療を行う」が僕の理念。そして「徹底した法令順守」。法律の範囲内で可能な限り、患者さんのためになる事を徹底して行う。また物理や化学など理系の知識や技術を人類のために使うのが医学だし、「診察とは五感の科学」だと思ふ。「機転共感、理解」がない医師は失格、知識だけで知恵のない医師はダメです。僕自身は過去の歴史と地理の書物から学ぶことが多く、多様な情報から病院運営に生かせるものを選択してきた。自分でも思うけど、これまで病院を長年運営して、その信念や方針の基軸がぶれたことがない。職員たちに言うことも昔から変わっていません。ある人に「蒲池はピュアだ」と言われたことがありますよ。

「ハリソン内科学」という教科書があるのですが、その一節が僕の医師人生における基本理念、姿勢なのです。「ラム参照」

■「志学誠商」を経営哲学として

Q 病院経営も厳しい時代といわれますが、独自の経営哲学をお持ちのようですね。

蒲池 患者さんに支払っていただいたお金は患者さんに還元するのが基本です。これまで特に公立病院では採算を考えずに運営してきたけど、僕は物品購入では仕入れから見直し、薬価や金融機関の借入金利なども絶対に抑えるから、「蒲池価格」なんて言われています(笑)。

■院内にバー開設！「改革が伝統」をモットーに

Q 最後に、病院の将来像や今後の計画について。

蒲池 病院は新設するより継続発展のほうが難しい。池友会は、診療報酬がつかない時代から訪問看護を先駆的に開始し、現在、複数のグループ病院や関連団体を擁しています。いわばそんな中で福岡和白病院が今年20周年を迎えたいはず、通過点の一つだと思ふ。今後も医療関連以外には事業拡大しない方針です。今後はよりいっそう、職員教育に力を入れ、海外での情報収集や医療活動にも尽力したいですね。カンボジアのアンコール病院にも長年にわたり職員を派遣しています。地域に支えられた病院だから利益も地域還元が基本だけど、数%くらいは他所のために役立ててほしいです。それと入院患者さんの中には食事制限のない人もいるわけで、将来は院内にバーを作りたいね(笑)。「人が出来ることはしない。僕らしかできないことをする」「改革が伝統」がモットーなんです。



また「志学誠商」を心がけています。知識と技術、心、そして経済力。志や知識技術があっても、経営が成り立たなければいけない。経済的安定による永続性、非営利的な公共性をもって利益をうみ、医療向上に投資するのが僕の方針。一方、患者さんに対しては出来る限りのサービスを心掛けます。例えば入院患者さんの唯一の楽しみは食事だけど、「冷たい、まずい、夕食時間が早すぎる」と不評のところが多い。僕は給食担当に「良い食材、上等の米を購入するように」と言っ。「ご飯のおいしさ、盛り付け、適温」が病院給食の鍵だと思うから。

コラム

●「ハリソン内科学」より（一部抜粋）●

医師になること以上に重大な機会、もしくは責任と義務が人に課せられることはないだろう。医師には、病人の治療をするための熟練した技術、科学的知識、人間理解が必要となる。医師は勇氣と謙虚さと智慧をもってそれらを用い、人類同胞のために比類のない貢献をなし、さらに自らの内部に忍耐強い人格を築き上げるであろう。医師は自らの運命についてそれ以上を望むべきではなく、また、それ以下に満足すべきではない。機転共感、そして理解することが医師には期待されている。なぜなら、患者は、単なる症状や徴候、機能障害、臓器損傷、感情障害などの寄せ集めではないからである。患者は人間であり、怖れを抱き、希望をもち、そして苦痛からの解放、援助、安心を求めているのである。

Profile



医療法人財団 池友会 福岡和白病院
院長 蒲池 真澄
(かまち ますみ)

1940年福岡県八女郡黒木町出身。
65年九州大学医学部を卒業後、勤務医を経て74年に下関市に下関カマチ医院を開業し独立。以降、小文字病院、福岡和白病院、新行橋病院、新水巻病院の総合病院4施設のほか、香椎丘リハビリテーション病院や教育施設などを創設。
急性期医療のほか、早期リハビリ、在宅医療などの回復期医療、総合医療の充実に積極的に取り組んでいる。



移転前の福岡和白病院

トピックス

ヘリ訓練& 空港での災害訓練



ヘリ訓練と空港での災害訓練を行いました。もしもの時に、慌てず適切な対応をとれるように日頃から訓練やシミュレーションを行っています。

合同学術研究発表会

平成19年8月12日に関連病院合同の研究発表会がありました。医師・看護師・医療技術部・事務からそれぞれ演題の発表を行いました。医師と事務では金賞を受賞しました。今後の業務に活かしていきたいと思っております。



大海水浴



福岡和白病院恒例の大海水浴を新宮海岸で行いました。家族サービスや職員の交流の場としてだけでなく、良い気分転換の機会にもなりました。

院内研究発表会

平成19年9月27日と28日の二日間、院内研究発表会を行いました。日頃の業務の中でより質の高い医療に繋がるように工夫したことや症例を発表し、活発な意見交換が行なわれました。



脳神経センター 特別参与 白水 徹

久留米大学卒



初めまして、7月より赴任いたしました。これまでの経験を生かし、脳神経外科をはじめ、救急医療、検診、コンピュータシステムなどについて協力できればと思います。よろしくお願ひ致します。

高度救命医療副センター長 安達 普至

大分医科大学卒



この度、ERを中心に勤務させて頂くことになりました。救急医学、集中治療などに取り組んできた経験を生かし、地域の皆様の健康を守るお手伝いできればと思っています。宜しくお願い致します。

新入職医師の紹介

福岡和白病院に、新しい力が加わりました。患者様のため、医療の質を高めるために一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。



循環器科

石橋 史行

大分医科大学卒



熊本生まれです。大学卒業後、10年間の内科、循環器の臨床研修と4年間の米国での研究生生活(血管内視鏡による危険性の高い冠動脈病変の検出をテーマとしていました)を経て、9月からこちらに赴任致しました。狭心症、心筋梗塞の診断、治療に携わっております。宜しくお願い致します。

神経内科

藤岡 伸介

福岡大学卒



10月より、神経内科に赴任致しました。神経内科医としては、まだ2年半と経験は浅いですが、しっかりと勉強して、患者様のために頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

病院長への手紙

病院長への手紙

玄関付近にタバコの吸殻がポイ捨てされています。玄関前に灰皿を置かれてはいかがでしょうか？

返事

貴重なご意見ありがとうございます。喫煙者のマナーに関しては当院も頭を痛めております。もともと当院は敷地内禁煙であり、玄関前も禁煙の区域になります。そのため、灰皿などの設置は行なうことができません。喫煙場所と致しましては、当院隣のさくら薬局さんの前に灰皿が準備されております。吸殻やゴミに関しては職員が日に何度か掃除をするようにしており、不快な思いがないようにと取り組んでおりましたが、ご指摘頂き、申し訳なく思っております。今後は、清掃とともに、敷地内禁煙を理解して頂けるような工夫も検討して参りますので、ご理解下さい。

当院では、患者様からの生の声を活かして、より良い病院、患者様に信頼してもらえる病院となるために取り組んでいます。今回、現在までに届けられた「病院長への手紙」から幾つか取り上げご紹介したいと思います。

運動講座!

前回に引き続き、運動前後の「ウォーミングアップ・クールダウン（準備体操・整理体操）」のお話をしようと思います。今回は「足のストレッチについて」見ていきましょう。

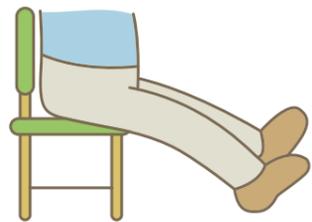
＜ストレッチ体操を行う前の注意点＞

- ・呼吸を止めて行わない（必ず呼吸をしながら行なう）
- ・反動をつけずに、ゆっくりとした動作で行なう
- ・痛みのある方は、痛みのない範囲で行なう（又は中止する）

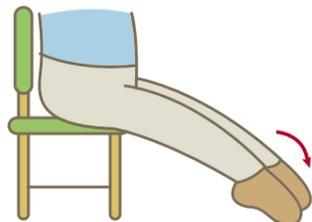
★足のストレッチ

(10秒間×2回づつ)

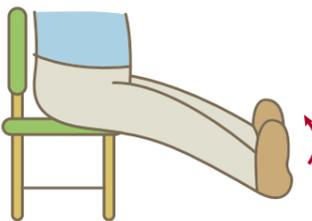
① すねとふくらはぎを伸ばす



両膝を伸ばす。



つま先をたおして止める。



つま先を上げて止める。

② 腰とお尻の筋肉を伸ばす



膝を曲げて抱え込みます。膝が曲がりにくい方は、膝のうらから抱え込むようにして、痛みのない程度に脚を持ち上げましょう。

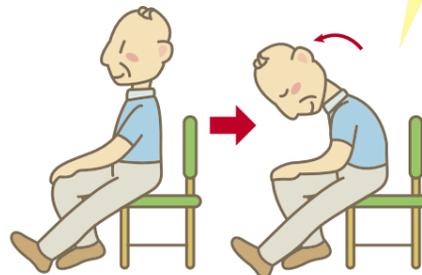
③ お尻の横の筋肉を伸ばす



足を組んで、お辞儀をします。

④ 脚の後ろを伸ばす

足が真っ直ぐに伸びるように、浅く椅子に腰掛けましょう!



⑤ 内股の筋肉を伸ばす



足を開いてお辞儀をします。

薬のまめ知識

今回のテーマ インフルエンザ

インフルエンザに対する
よくある質問にお答えします。

質問 予防接種を受ける時期はいつが良いでしょうか?

答え 抗体ができるまでに3〜4週間かかりますので、インフルエンザが流行する1月までに抗体をつけておくことすれば、12月中旬までに予防接種を受けることをお勧めいたします。

質問 予防接種を1回しか受けないのは、意味がないのでしょうか?

答え 2回受けるのは、より強い抵抗力を付けるためです。1回接種でも抵抗力はある程度付きます。成人の場合、1回接種の予防効果は64%ですが、インフルエンザに罹患したときの死亡予防効果は1回接種でも80%あると言われています。



栄養相談室

Q 体重を減らしたいのですが、どうしたら良いですか?

A 最近、メタボリックシンドロームをはじめ肥満は大きな問題です。しかし、その一方で美容目的などの無理なダイエットも問題になっていきます。まずは、自分が減量をする必要があるのか、しっかりと見極める必要があります。減量が必要かどうかの目安としては「BMI」というものが用いられます。計算方法と基準は別表の通りです。肥満の人や正常域でも高値の人は減量をお勧めしますが、そうでない人は医師などに相談し、減量の必要性を判断して下さい。また、運動をよくされる方などで筋肉質の人などはBMIが高く出ることもあるので、「体脂肪率」などの数字も併用して判断するとより正確に自分の体の状態を知ることができると良いでしょう。

今回は、減量前の導入の話で終わってしまったので、次号に減量のポイントを掲載しようと思っています。

BMIの計算式

$$BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

BMI	判定
18.5未満	やせ
18.5～25	正常域
25以上	肥満

★体脂肪率のめやす

女性	体脂肪率	傾向	体脂肪率	男性
	20未満	低い	10未満	
	20～30未満	適正	10～20未満	
	30～35未満	やや高い	20～25未満	
	35以上	高い	25以上	

※体脂肪計のメーカーにより若干異なります

患者さまへのお知らせ

INFORMATION
TO PATIENT

こんな症状でご来院の方は・・・

1
あたま
の痛み2
胸
の痛み3
背中
の痛み4
どうき5
息ぎれ6
呼吸
困難まずは **ER** [救急
外来] で診ます。

胸の痛み、頭の痛み、呼吸困難などは、たとえ症状が軽くても、実は重い病気の初期であることがあります。福岡和白病院では、こういった病気の見逃しを防ぐため、このような症状のある方は、まず救急外来で診察させていただきます。

なお、すでに他の医療機関を受診し、特定の科・医師あての紹介状をお持ちの場合は、受付でご相談下さい。

福岡和白病院の基本理念と基本方針

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

基本方針

1. 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
2. 総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
3. 地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

